

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	入學式に於ける櫻井校長の訓告大意
Author(s)	櫻井, 房記
Citation	龍南會雜誌, 87: [1]-[4]
Issue date	1901-10-18
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5201
Right	

新入學式に於ける櫻井校長の訓告大意

新入學生諸子に告ぐ

茲は學年の始に方立三百有餘の新來の諸子を迎へたるは本校の最も満足する所なり只今諸子の總代
か朗讀せられたる宣誓文の各項は諸子が是迄教育を受けられたる各中學へ豫め通告しをきたれば其
各學校長より夫々諸子に懇諭ありたる筈なり又本校に於ても已に之を公示して諸子に知らしめおき
置れば諸子は充分に承知のこと、信す否唯は承知しをらるゝのみならず之を決行するの覺悟あるこ
とを確信すまれば此宣誓文の各項に就ては別に一々説明するの要なしと思惟すれども凡そ何事によ
も之を決行せんとするには充分に其意を領得し自から其必要を感じするにあらざれば能くせざるも
のなれば聊か各項を敷衍して訓諭する所あらざらず

一凡そ多數の人々相集りて其同の團體を組織し其同の利益を享けんとするは各自が其利便の一部
を犠牲にして團體一般の利益を計るは此團體を組織する所の各個人の義務なり學生が學校の規則を
遵守するは學校の秩序安寧を維持し其利益名譽を保護する所以にして學生當然の本分なり法律規則
根據上に治者の利便の爲めに被治者の行動を制するものと誤解する者往々多きにあらざるか如し而
して規則の中には被治者の不規律無責任なる行動か其必要を促かしたるもの亦少しとせず諸子宜し
く體裁を重んじ其本分を盡し苟も不規律無責任なる行動あるべからず

一高等學校の學生たるものは宜しく其志想を高尚にし其風紀を嚴肅にし其言行を慎み以て高等の教
育を受けつゝある學生たるの品格を保ち其面目を完くすべきなり近來一般書生の風紀大に紊れ其風

俗月に日に輕薄奢侈に赴くことは識者の浩歎する所なり諸子は宜しく淳樸剛毅の氣象を持て質素勤儉の美風を守り世の惡風潮に侵潤せられざるの覺悟あるべし

一諸子は一旦高等學校に入りたる以上は志を堅くし艱難を排し以て其目的を達せんことを期せらるべし其時の都合上暫く籍を高等學校に置き加さは不都合千萬なること勿論半途僅の障礙に逢へば輒く志を屈して退學するか如きも甚不可なり今本校に於ける最近三年間の統計に依るに新入學者百六に付二年後に平均僅に四十六人弱の卒業者を出すに過ぎず即ち平均五割四分強は順當に卒業せざるなり尤も此内には落第者も含みたるも兎に角多數の半途退學者あるは事實にして高等學校に三學年を通して多くの空席ある道理なり而して一方を顧れば全國の中學校卒業者にして等しく高等學校に入るの希望と資格とを有しなから不幸入學する能はずして方向に迷ふもの幾千百人あるを知らず國家教育の上より見又國家經濟の上より見て豈不都合の至ならずや諸子は誠に貴重なる權利を先得せられたるものなれば平生能く健康に注意し病に罹らざるやう心掛け又區々たる家事の都合等の爲めに俄に退學するが如きことあるべからず

一飲酒のことに就て一言せん諸子は在學中飲酒せざることを宣誓せられたる以上は勿論之を實行せらるる、ことは信じて疑はず而も禁酒のことたる斷乎たる決心あり殊に克己の精神あるべし然れば長日月の間には或は決心次第に緩み遂に知らず緘らば誓を破るが如きことをなすとせず故に禁酒の決心を定むるには諸子自から深く飲酒の弊を察し其害を悟ること必要なりとす試に思へ學生として酒杯に親み貴重之光陰を徒費し父兄より送り來る所の大切なる學資を飲酒の料に供するは實に不都

合の至りならずや又飲酒の爲めに知識を遲鈍ならしめ學業の進歩を妨け甚しきに至ては健康を傷ひ遂に終身醫すべからざる病源を惹起するか如きは實に愚の至りならずや加之世間酒々書生の風紀に關する不都合は大概飲酒の惡結果ならざるもの殆んど稀なり其他の弊害に至りては一々擧て數ふべからず學生の飲酒は實に百害ありて一利なしと云ふも敢て過言にあらざるべし然るに好酒家は種々の口實を設けて我田引水の説をなす或は諸子を誘惑し諸子の決心を弱からしむるか如きことあらんとを恐る人或は云はん酒は其度を過ぎ、れは一つの不可なきのみならず却て衛生上に益ありと酒の衛生上に於ける利害は生理學の問題として姑く茲に論せず血氣の青年が酒杯に向ひて果して適度を過ぎらざることを得る乎是れ難中の至難なり寧口危に近つかず斷然杯を取らざるに若かず或は云はん社交的禮儀上全く飲酒せざること能はずと然れども今日は最早社會は書生の飲酒せざることを得ぬや否寧日當然のこととして是認すべし如何なる場合と雖も飲酒せざるも差支あることなかるべし或は云はん書生は酒を飲まずれば血氣なしと然れども酒上の活氣は所謂附元氣にして此附元氣こそ往々學生をして言行を亂し規律を破り品位を傷け風紀を紊す等種々の惡結果をなさしむる原因となさなし而して此所謂元氣は酒の醒むると共に眼跡もなく消滅するも後悔は永く残りて常に眞心を責むるなり諸子は娛樂は酒に依らざるも得たるべし活氣は酒に依らざるも養はる可し予は夫れ體育を奨勵し戶外運動の盛んに行はれんことを望む戶外運動は淡白無邪氣なり有益無害なり娛樂もこの内にあり活氣もこれより生じ身体も之に依て強壯に精神も之に依て健全になるなり諸子深く飲酒の弊害を察して確乎不拔の決心をなすべし

「是より古參の學生諸子に一言せん七旬の休暇已に全く過ぎ去り諸子は健全なる身体と精神を齎らして歸校せられ茲に再び諸子と相見るは予の最も欣ぶ所なり只今新入學生は諸子の面前に於て四ヶ條は就ち宣誓せり此條項に就ては諸子は別に誓約したるにあらざれども機に臨みて毎に予及各教官より訓諭する所はして特に飲酒を廢することに就ては屢々諸子の決心を促かし常に銳意督勵して其實行を期しつゝあることは諸子の熟知せらるゝ所なり今や新入學生は禁酒を誓ひたり諸子は宣誓し居らざるも宜しく學校の方針に従ひ予の訓誡を服し各自の小利益を捨てゝ大に公共心を振ひ一致協力以て飲酒の惡弊を除去することとを務めらるべし殊に諸子は我校の先輩なり自から模範を示して後進を善導し校風を維持するの責任を有するものれば新入の諸子と相提携して益々風紀の振張を計ることに盡力せられんことを切望す。